

したものは、信じないよ」

SE 大雨

石段を昇る

千歌（M）「日が暮れても、与三さんは帰ってこなかった。居ても立っても居られなくなつた私は……」

与三「お嬢様、こんなところまで……」

千歌（M）「与三さんは、拝殿の前にいた」

千歌「雨足^{あまあし}が一段と強うなってきました。戻りましょう」

与三「いえ、今宵は帰りませぬ」

千歌「どうして？」

与三「ここから見下ろせば、川の様子がよくわかるのです。年々土砂が溜まり、川床が高くなっている。長雨となれば、すぐに堤が切れましよう。そうなる前に、あれを鳴らさなければ……」

千歌（M）「境内の鐘楼^{しょうろう}を、与三さんが指

さす」

千歌「しかしそれでは、与三さんが……」

与三「父上はここに踏み止まり、鐘を鳴らして村人を救った。あれを鳴らすのは、今や私の務めでしよう」

千歌「お父様と同じように、ここで命を落とすというのですか」

与三「庄屋様は父上に報いるため、私を捨ててくださいました。こいつは私にできる唯一の恩返しだと、そう思っております」

千歌「どうあっても、そこを動かぬと？」

与三「怯えて逃げたとあっては、あの世の父上に笑われましょう」

千歌「ならばちかも、一緒にいたいと思います」

与三「そいつはいけない」

千歌「どうして？ 竜神様に共にお祈りしましょう。心を合わせれば、きっと願いが届くはず」

SE 落雷